



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第7号

2021年5月31日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

卵ノ里小学校 ちさき 知崎SP活動初日

5月26日、卵ノ里小学校に新たな仲間、知崎SPが加わってくれました。活動初日ということで、私も一緒に卵ノ里小学校に伺い、実際に活動している様子を見させていただきました。

活動初日、とても緊張したと思います。初めはどのSPさんも緊張します。それでも、東浦町に来てくれるSPさんがすごいのは、子どもの前に立ったらすぐに子どもに話しかけられる、コミュニケーションが取れることです。知崎SPもそうでした。「では、この子についてあげてください。音読をするので聞いてあげてください。」担任の先生のその言葉で、すぐに音読を聞く態勢に入っていました。(担任の先生も、知崎SPが来てすぐに声をかけてくださいました。とても有難いことです。)
「音読を聞く」知崎SP、ただ聞いているだけではありませんでした。体を子どもの方に傾けて、時折うなずきながら、全身で「ちゃんと聴いているよ」と示していました。子どもも、きっと初めての先生(SP)に緊張していたと思います。知崎SPのこうした姿勢が、子どもが安心して音読(勉強)に取り組めるようにしているのではないかと思います。こういった‘非言語コミュニケーション’も大切な技術だと思います。知崎SP、バッチリでした。

音読が一通り終わった時、担任の先生が子どもに近寄り「ここも上手だから、もっと聞かせてあげて」「先生(SP)に、知っているお花がどれか聞いてみてごらん」と話しかけていました。現場の“生の指導”です。先生と子どものやり取りをリアルタイムで見られることが、ウィークリーSPの活動の醍醐味でもあります。先生の声掛けを知崎SPもしっかり見て、聞いていました。そして、音読の合間に子どもに声を掛け、積極的にコミュニケーションを取っていました。それでも、最初はなかなか難しかったと思います。「どう声をかけよう？何を聞いたらよいだろう？」と悩んだかもしれません。その悩むことや迷うことが学びです。現場にいるからこそ得られる経験です。知崎SPも悩みながら、迷いながら、それでもめげずに声を掛け続けていました。子どもも次第に打ち解けて、会話が続くようになりました。「さすがだなあ。初日なのにすごいなあ」と思いました。

どの学校の子どもたちも、SPさんが大好きです。優しく、穏やかで、遊んでくれて、話をしっかり聞いてくれる。そんなSPさんを子どもたちが好きにならないはずがありません。一人一人を大切に、しっかり話を聞く。SPという立場だからこそ出来ることだと思います。穏やかで優しい雰囲気を知崎SP、きっと卵ノ里小学校の子どもたちも大好きになると思います。これから、よろしくお願いします。

